

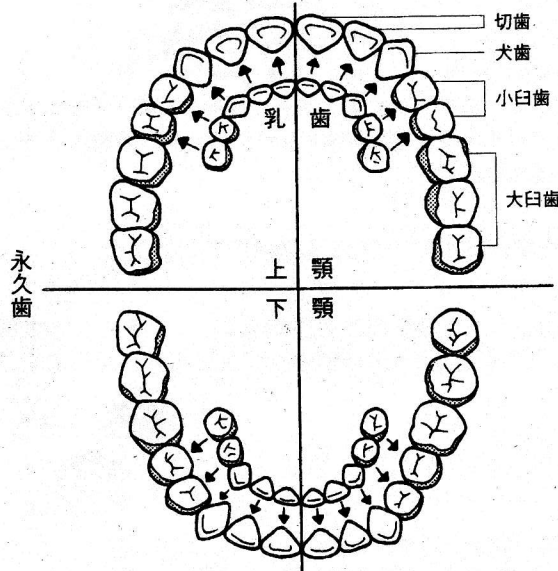
11月8日は「いい歯の日」



歯の仕組みと働き

指導／日本歯科大学 生命歯学部 解剖学第1講座 教授 佐藤 巖 先生

歯の並び方と本数

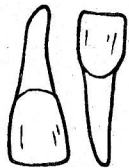


人の歯は乳歯で20本、永久歯で28～32本からなります。消化管の入り口に当たる口の中にあり、切歯、犬歯、臼歯という3種類の形の歯で食べ物をかみ切り、細かくかみ砕く重要な役割を果たします。

人の歯は一生のうちに1回、乳歯から永久歯に生え替わりますが、大臼歯だけは最初から永久歯で、生え替わることはありません。大臼歯は一生の間に最も長く使用するため、溝がすり減ることがあります。一番奥の大臼歯は親知らずといい、生えない人もいます。

切歯

のみのような形



食べ物をかみ切ります。

犬歯

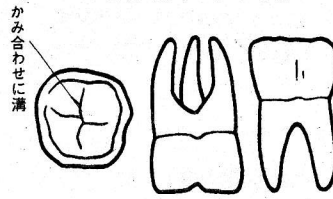
とがった牙のような形



肉などを切り裂きます。

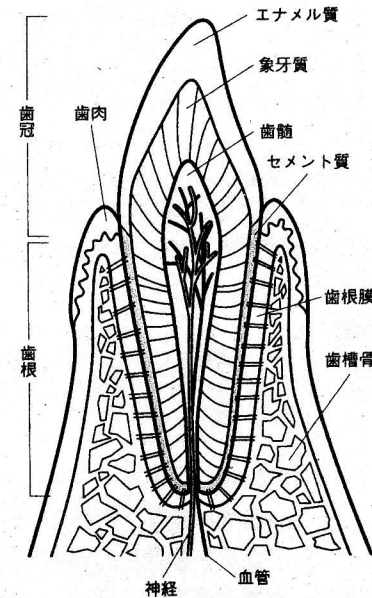
臼歯

きねと臼のような形



食べ物を細かく砕き、すりつぶします。

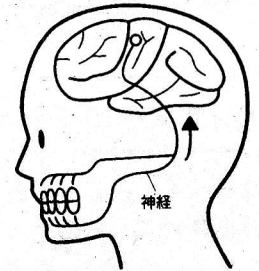
歯の断面図



歯冠の表面はエナメル質という、人体で最も硬い組織で覆われています。これは水晶くらいの硬さがあり、いろいろな物をかみ砕くことができます。エナメル質の下はエナメル質より軟らかい象牙質とセメント質という組織です。歯の中心部(歯髄)には血管、神経が集まり、ここから象牙質の細胞に栄養を送ります。歯根は顎の骨(歯槽骨)の中に埋まっています。

脳に情報を伝える 歯根膜

歯と歯槽骨との間にある歯根膜という組織は、歯をクッションのように支えているだけでなく、歯の感覚を脳へと伝えています。



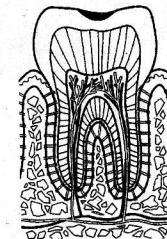
むし歯はどのように進むの？

非常に硬いエナメル質ですが、歯磨きが十分でない場合などに、歯表面に歯垢ができる、そこからむし歯菌が出す酸によって、表面が溶けてしまいます(脱灰)。

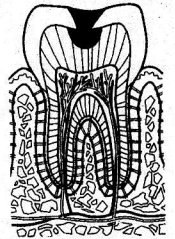
むし歯菌の増えにくい食習慣と、適切な歯磨きを心がけていれば、唾液によって再石灰化が促され、溶けたエナメル質が修復されることもあります。脱灰が進んでしまうと、なくなった部分が自然に元に戻ることはありません。

エナメル質だけのむし歯は、しみることはなく、痛みも感じませんが、象牙質までむし歯が進むと、冷たい飲食物で痛みを感じ、見た目も茶褐色や黒い色に変わります。

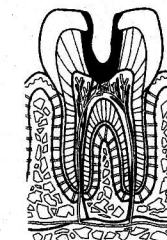
①エナメル質のむし歯



②象牙質のむし歯



③歯髄まで達したむし歯



④歯根だけ残ったむし歯

